

# 私立 山村学園短期大学

取組名称 学長の強いリーダーシップで面倒見良いキャリアガイダンスの推進

取組担当者 コミュニケーション学科 教授・キャリア支援センター長 平工 博司

## 1. 本学の概要

本短期大学は、1988(昭和63)年12月22日に山村女子短期大学国際文化科として設置認可され、1989(平成元)年4月1日に比企丘陵の一角、埼玉県比企郡鳩山町に入学定員150名で開学する。一人ひとりの学生を丁寧に指導し国際的な教養を身につけた女子を育成するという教育理念の下に教育活動を行ってきた。この間、社会的諸条件の変化に対応すべく、当初の国際文化科は、2002(平成14)年から「コミュニケーション学科」に改編すると同時に、保育士の養成を目的とする「保育学科」を新設する。また、この機会に男女共学としたため、校名も山村学園短期大学に改める。現在では、「質実」「英知」「愛敬」の建学精神の下、①高い技術を持ち、地域社会に貢献できる人材の育成、②一人ひとりを大切にする指導を教育理念とし、保育学科においては、自然や人を愛する精神の涵養、高い保育技術の習得を、コミュニケーション学科においては、人を理解する心の涵養、社会人として身につけるべき社会性の習得、高い職業能力の向上を目指して教育に当たっている。

## 2. 本取組の概要

本取組は現下の経済不況等により極端に就職困難な状況が生じているため、専任職員及び地域の活力を活用したキャリア支援組織の新設と入学前から卒業後のキャリア支援を図り、職業観の涵養、資格取得等により主体的に進路選択できる能力を備えた人材の育成を目指している。本学は、保育学科・コミュニケーション学科の2学科からなる入学定員150名の小規模短期大学である。これまでは過去7年間就職率90~100%を誇ってきた。急激な経済環境の悪化からコミュニケーション学科においては、2009(平成21)年度における内定率が極端に悪化している。このため、本学としては、入学前から卒業後までのキャリア支援体制の構築を目指して、①地域や学外の教育力を活用した職業観

の涵養・職業に関連する資格取得等により主体的に進路選択できる能力を備えた人材の育成を図るカリキュラムの再構築、②学生の入学前から卒業後に至る情報の一元化、スキルアップ指導の充実等を図るため、学長直轄の新たな組織としてキャリア支援センターを立ち上げた。センターでは就職支援体制の強化を図り、学生自らがキャリアデザインを行い、人生設計を行えるキャリア支援等を展開し、学生一人ひとりの進路実現を図る。

## 3. 本取組の趣旨・目的・達成目標

学生の進路・就職については、これまで学生相談室、進路指導、学生支援、基礎演習、総合演習等において対応し、指導を行ってきた。具体的な進路指導については一年生の後期授業開始時から本学進路指導部編集による「進路の手引」によって指導を行ってきた。しかし、学生の進路・就職環境は大きく変化し、社会のニーズも多様化してきていることから、現行の支援体制ではカバーしきれない状況を迎えている。同時に世界経済の悪化や円高による日本企業の不況等によっても例外なく就職困難な状況が起こっている。この就職困難な状況を打破するためには就職支援体制の強化を図ることが急務である。そこで、これまでの支援体制を見直して新たにキャリア支援センターを組織し、新しい時代に備えたサポートシステムを構築することとした。これは学長直轄のキャリア支援センターを新設し、進路ガイダンス、就職特別セミナー等の開催において外部講師を招き、学生のスキルアップ及び職業観の涵養を図ることとした。

学内においては、学生に対して、入学から卒業までの2年間で、自己の適性の発見、職業意識の形成、2年後に希望の進路を実現するためには何が必要か、社会人としてどのような素養を身につける必要があるかなどを教育し支援する。

一方、地域における企業、幼稚園・保育所ではどのようなニーズがあるか、本学は地域社会から何が期待

されているかということのを的確に把握し、地域の企業、教育施設・機関に対し、本学から情報を発信するとともに、相互の交流を深め、提携等を通してパイプをつなぎ、深めていく必要がある。キャリア支援センターは学生に対して、キャリア形成支援、進路・就職の支援活動及び進路・就職に直結するソーシヤルスキル教育を行うとともに、企業、幼稚園・保育所間の交流・提携等を通してビジネスマッチングを進め、ビジネス市場の開拓と雇用創出を実現することを目的としている。

#### 4. 本取組の具体的内容・実施体制

##### (1) キャリア支援センターの開設

2010(平成22)年度4月からキャリア支援センターを設置開設して、従来の就職支援に加え、学生一人ひとりの将来設計・展望を支援するキャリア教育を充実させ、キャリアスキルアップを支援し、それぞれにふさわしいキャリアを形成していくために必要な意欲・態度や能力を育てる教育を目指して学生一人ひとりの勤労観、職業観を育てる教育をすることを使命としてセンターを立ち上げ強力なサポート体制を築き、さらに進路支援に関する新たな試みにチャレンジし、より効果的な進路支援体制等を構築することで、学生一人ひとりのニーズに応える。センターの人的構成は専任教員が1人、非常勤4人、職員1人の構成である。センター構想から始まり、センターで実施する内容等について企画立案、検討を重ねて年間計画を立て、実施できるものから実施することを確認した。さらにカウンセラーやベテランの就職担当職員による個別の相談や面談を通じて指導、支援をしている。

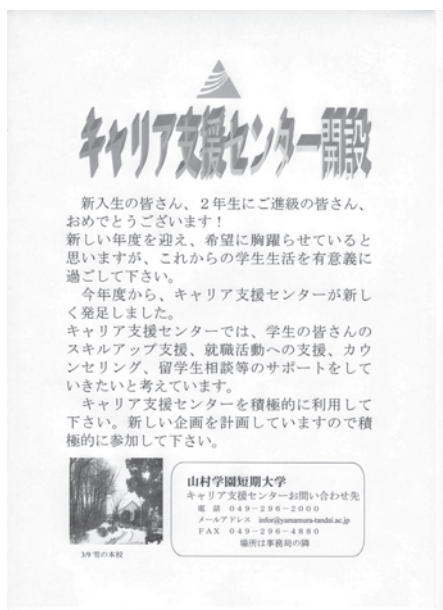


写真1 キャリア支援センター開設の広報

##### (2) キャリア形成の支援

###### (i) 進路・就職先の開拓及び求人への支援

地域企業で既卒者を積極的に採用する就職先企業において、学生が就職可能な企業のリストを作成して教職員3名により18企業を訪問・面会して採用計画等について情報を得た。また、埼玉県主催の合同セミナーで5企業の採用担当者と面談をした。さらに、ヤングキャリアセンター埼玉・ジョブカフェながおか・ハローワーク長岡のジョブサポーターと面談して学生の就職情報等の把握をした。

###### (ii) 「春季就職特別セミナー」の開催

「春季就職特別セミナー」を保育学科は2日間実施し、就職指導ガイダンスと就職模擬試験、及び外部講師による講演を実施した。1日目は保育園園長・幼稚園園長による「保育現場で求められる保育者像」と題して講演会を実施した。保育現場の長による講演は、勉強方法や求める人材及び就労の意味について学生の意識向上につながった。午後からは幼稚園・保育園関係の模擬試験を実施し、その模擬試験解答及び解説を実施した。2日目は面接試験に向けた立ち居振る舞い、電話のかけ方、企業及び施設、幼稚園、保育園等への受験について実施し、午後からは学生による体験発表を行い、就職活動での留意点として学校推薦基準、履歴書の書き方、応募等の手順・手続き(求人票→応募届→見学届→書類用意→受験→受験報告→結果報告→進路内定・決定届)等について詳細に説明した。コミュニケーション学科の学生(1年)には1日間実施し、卒業予定者(就職内定者、編入学者)が参加して就職、編入学について話していただいた。

###### (iii) 「総合演習特別講演会」の開催

「総合演習」においては外部講師による構成的グループエンカウンターを実施し、学生のコミュニケーション能力を向上させることができた。

###### (iv) キャリア支援センターだよりの発行

キャリア支援センターだよりを発行(第1～3号)し、本学にキャリア支援センターの開設及び今後の予定として進路に関する講演会、講座の開設をするとともにカウンセラー等についての相談を受入れ、学生がキャリア支援センターを身近に利用できるよう広報活動をした。

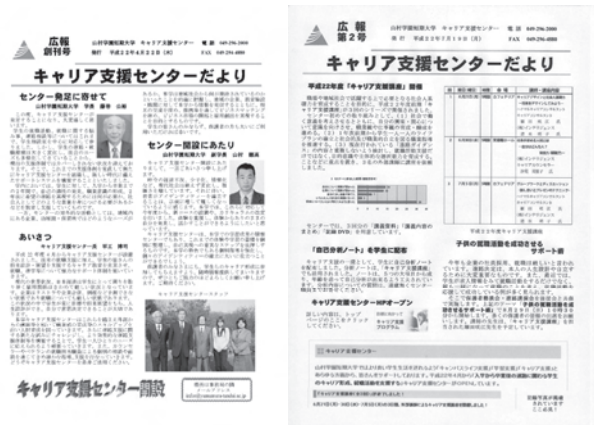


写真2 キャリア支援センターだより

### (v) キャリア支援講座の開催

キャリア支援講座は、3回（1回90分）にわたり放課後に実施し、入学から卒業までの2年間で、自己の適性の発見、職業意識の形成、2年後に希望の進路を実現するために何が必要か、社会人としてどのような素養を身に付ける必要があるかなどを指導し支援する講座を実施した。第1回は「キャリアデザインと社会人基礎力」と題して学生生活（高校、短期大学）においてどのようなことを学んだか、短期大学へ入学した理由、社会で必要とする能力、10年後の私、業界の種類等について講演、講義形式で実施した。第2回は「社会が求める人材とは」と題して社会人基礎力、自己分析、自己PRのための分析等について講義形式で実施した。第3回は「グループワークとディスカッション」と題して話し合いにおけるプレゼンテーションのテクニックについて講義形式で実施した。その際に「自己分析ノート」も配付した。



写真3・4 キャリア支援講座風景

### (vi) 保護者進路講演会の開催

「子どもの就職活動を成功させる親のサポート術」、「就職活動の現状と親の関わり方」と題して、外部講師に依頼してフリーター、ニートのリスクや就職活動の流れと企業の選考方法、企業の求める人間像、内定を受ける学生のタイプ等について講演を行った。保護者も一緒になって進路のことを考え、就職活動や進路決定に保護者としてサポートするとともに就職活動を応援して、学生本人の人生設計や自立するために保護者に理解を求めるための講演会を実施した。



写真5 藤巻学長あいさつ

### (vii) 保育講演会の開催

「現代の保育事情と保育サービス」と題して、外部講師に「多様な保育サービスの提供」、「小規模保育サービス」、「短時間利用者向け保育サービス」「早朝・夜間・休日保育サービス」、「事業所内保育サービス」、「広域保育サービス」等の視点から、現代の子育てを取り巻く状況説明があり、女性の社会進出の進み具合、共働き家庭の増加、保育所その他に依存する育児環境、都市化や核家族化の進展、育児機能の伝承低下、家庭での養育機能の低下等の状況の中、待機児童の増加、保育所不足が社会問題となっており、また子ども手当の給付も話題としてとりあげ、現代の保育事情と保育サービスについて講演会を実施した。

### (viii) ハローワークによる講演会の開催

コミュニケーション学科、保育学科の学生がハローワーク東松山（川越公共職業安定所東松山出張所）へ出かけて職員の方から講義をいただき就職活動に少しでも活用して内定を得られる講演会を実施した。その内容は「就職活動を成功させるためにハローワークで学ぼう」、サブタイトルとして「今年度現在の雇用状況と就職活動について」と題して、コミュニケーション学科学生に対してハローワーク東松山（川越公共職業

安定所東松山出張所) 所長、上席職業指導官、ヤングキャリアセンター埼玉雇用指導官の3人から、今春卒業者の大学生、短期大学生の就職内定率や2009(平成21)年度は内定がまったく得られない学生の増加の他、内定取消し等で就職できない状況、今年度についてもさらに厳しい状況が続いているとの講義を受けた。また、他時期に、同じ内容で保育学科の学生(1年生)に対して講演会を実施する予定である。これを機会に今後ともこのような講義を企画するとともにハローワーク、ヤングキャリアセンター、地域社会との連携を一層密にしていく予定である。



写真6 ハローワーク所長あいさつと講義

### (ix) 企業の社長との交流会(座談会)の開催

企業の社長(中小企業の社長に依頼する)を招いて会社、就職状況等の説明と就職等について学生からの質問形式で交流会を実施する。企業を立ち上げた苦労等について本音で話しあう場とする。

### (x) 留学生への進路指導支援

留学生に対して非常勤講師の先生(中国籍)の指導の下、進路相談、資格取得(日本留学試験、日本語能力試験)、生活相談等を積極的に指導している。

### (ix) 卒業生への進路支援

卒業生に対してセンター教員が職場訪問して卒業生の職場での悩みや勤務状況等について相談を受け、面談して職場での課題や本人の努力不足等について話し合いを行い、またこのような機会を通して、卒業生の情報等を収集し、卒業生の支援に役立っている。

## 5. 本取組の評価体制・評価方法

本プログラムの効果を測定する方法として計画→実行→評価→改善のサイクルを確立することにより、評価体制を確立する。具体的にはキャリア支援事業計

画を立案して講座等の実施を行い、アンケート調査を実施し、それに基づいてキャリア支援センター会議を行って適正な評価を目指し、キャリア支援センター運営連絡会(学長・副学長・センター長・学科長等で構成)を開催し、企画、実施計画等の確認を行い、実施状況と目標達成のための点検、評価をし、必要に応じて教授会で審議している。

## 6. 本取組の実施計画等

### (1) 2009(平成21)年度

キャリア支援センター室を設置して、パソコン、専用デスク、ロッカーを整備し、学生が利用するための各種参考書(教養、適性、編入他)の整備をしている。

地域企業・既卒者就職先企業で学生が就職可能な企業のリストを作成している。教職員による企業訪問を行い、合同セミナー等へ積極的に出向き企業の採用担当者とのパイプをつくる。

### (2) 2010(平成22)年度

学生支援、保護者のための講座、講演会を実施し、学生のキャリアアップを図る。

学生指導ファイルの管理、学生の進路希望状況の把握、進路の面接指導、就職内定の進捗状況、就職活動状況の把握をする。

取得資格状況の把握、学習達成度、身につけるべき力等の把握をする。

進路ガイダンスの計画、立案をする。

本学ホームページの更新、充実を図る。

広報活動の活発化を図る。

高校訪問、オープンキャンパスの拡大を図る。

キャリアデザイン支援プログラムを検討し、作成する。

現在、学生の就職状況は大変厳しい環境におかれているが、学生の進路を保証するために社会や集団への適応力、規範意識の向上やマナーの習得、人間関係を形成していく力、学ぶことや働くことへの関心・意欲の向上、コミュニケーション能力等の課題等を整理、検討して、学長の強いリーダーシップの基に今後もキャリア支援センターは引き続きチャレンジできる体制づくりをしていく所存である。